

## 日本プロテオーム学会（2021年～2023年理事）

## 2023年 第二回理事会 資料

開催日時：2023年7月26日(火) 12:00～13:00

会場：朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター3F 第3会場(小会議室 303-304)

出席者(50音順, 敬称略): 足達俊吾、荒川憲昭、荒木令江、岩崎未央、奥田修二郎、大槻純男、小田吉哉(オンライン)、川上隆雄、川島祐介、河野信、川村猛、紀藤圭治、木下英司、小迫英尊、小寺義男、小林大樹、近藤格、杉山直幸、高尾敏文(オンライン)、武森信暁、田中恒平、堂前直、肥後大輔、増田豪、若林真樹

欠席者(50音順, 敬称略):

## 1. 会長挨拶(小寺)

理事会開会する趣旨説明があり、また、新潟大会、皆様のおかげで大変盛況、懇親会も盛り上がった旨コメントがあった。

## 【報告事項】

## 1. 会員状況(川島)

## (1) 会員数 (2023年7月11日現在)

種別	会員数
個人会員	個人会員 521名 (個人会員:417名 <sup>※1</sup> , 個人会員(法人登録):104名) (昨年:507名、一昨年:545名、本年度新規入会者:44名)
学生会員	380名 (214名 <sup>※2</sup> ) (昨年:349名、一昨年:298名、本年度新規入会者:34名)
法人会員	14社 (昨年 13社、一昨年 13社)
合計	901名+14社 (昨年:856名+13社)

※1 2020-2022年度会費未払い者 532名を除く (昨年:508名)

※2 メール不達者除外

● 個人会員、学生会員、法人会員全てにおいて若干昨年度より増えているとの報告があった。

## 2. JPrOS2023大会(紀藤、大槻)(資料1)

(1) 参加人数:240名(会員157名、学生51名、非会員32名)(2023年7月19日現在)

(2) 大会収支案:収入12,750,000円、支出11,033,552円、収支1,716,448円

(3) 協賛企業数:38社(ランチョン5社、企業展示25社、広告12社、寄付金4社)

(4) 一般演題:特別講演3、受賞講演4、指定演題41、一般演題36、ポスター演題88

● 参加人数、経費等上記報告があった。

(最新ではないので、参加費も少し変動が懇親会は支出が増える可能性がある)

3. JPrOS2024 大会(近藤)(資料 2, 3)

● 審議事項として、会議の後半で審議された。

4. HUPO、AOHUPO 活動報告(小寺、近藤)

(1)HUPO 関連

- ・HUPO 2023: September 17-21 (Busan, South Korea)
- ・HUPO 理事候補の推薦 武森 JPROS 理事を推薦することが決定した。
- ・KHUPO との交流会について(9/17 日に行うことを計画)  
(ICPC の関連会議が 9/16 ソウルで開かれる)

(2)AOHUPO 関連

- ・AOHUPO 理事 河野先生、AOHUPO 副会長 石濱先生(2023 年~2025 年)
- ・11<sup>th</sup> AOHUPO 2023: May 8-10 (Singapore)
- ・12<sup>th</sup> AOHUPO 2024: Oct 24-26 (中国広州を予定)

● HUPO、AOHUPO について上記報告があった。

5. JPrOS イニシアチブ(奥田、武森、近藤)

(1)Japan Proteome Standard Repository/Database (jPOST)

- ・Journal of Proteome Data and Methods (JPDM)について
- ・科研費研究成果公開促進費について

● jPOST について、第二期は昨年度までで終了しているが、第三期として採択され 2023~2028(5 年)  
(石濱先生代表)継続することが決定したことが報告された。

● JPDM について現在 v5 が出版されている(total 13 本公開、1 本校正中)。投稿は増えているが、  
中間目標もあり、引き続き協力の要請があった。

(2)イニシアティブに向けた準備 (本大会でポスター展示)

- ・Top-Down Proteomics (Initiative for Gel-based Human Proteoform Atlas) 武森
- ・FFTE (研究基盤の構築: 病理 FFPE ブロックを用いたがんのプロテオーム解析) 近藤
- ・診断応用(難病領域におけるプロテオミクス診断の基盤整備) 小原

● 本学会で上記3課題についてポスター展示を行った旨報告があった

6. 学会誌発刊(大槻、奥田)

(1) Proteome Letters

(2) JPDM について(上記)

- 今年度3論文が採択済み、一ヶ月後には1号発刊を予定(河野先生、幡野先生/松本先生、前川先生)、次号は今年中に発刊予定であること報告があった。

7. 日本プロテオーム学会賞等受賞者(木下、小寺)

(1) 学会賞

- ・大槻 純男 (熊本大学大学院生命科学研究部)  
定量プロテオミクスの開発と医学薬学研究への応用
- ・小迫 英尊 (徳島大学先端酵素学研究所)  
先端プロテオミクスの開発・導入による細胞内シグナル伝達制御機構の解明

(2) 奨励賞

- ・松井 崇 (北里大学理学部)  
構造生物学とプロテオミクスの融合による立体構造情報の取得を目指して
- ・渡辺 栄一郎 (群馬県立小児医療センター外科)  
糞便中ホストタンパク質解析とその応用

- 上記の先生方が受賞され、昨日、学会内で受賞講演、授賞式が行われた旨報告があった。

8. 日本プロテオーム学会名誉会員

執行部から下記の4名の推薦があり、理事会にて承認された。

大会にて名誉会員証と副賞を授与

- ・谷口直之、中村和行、山本 格、平野 久

- 上記の先生方が名誉会員になられ、昨日、学会内で会員証の授与式が行われた旨報告があった。  
(平野先生はご都合によりご欠席)

8. KHUPO との交換講演(小寺、近藤)

(1) 2024年について

(2) 2010年～2023年

- 2010年 KHUPO 山本 格、木下英司
- 2010年 JHUPHO Ho Jeong Kwon (KHUPO 会長)
- 2011年 KHUPO 平野 久
- 2011年 JHUPHO Je Kyung Seong (Seoul National Univ), Kang-Sik Park (Kung Hee Univ)
- 2012年 KHUPO 山田 哲司
- 2012年 JHUPHO Kwang Pyo Kim (Konkuk University)
- 2013年 KHUPO 朝長 毅
- 2013年 JHUPHO KHUPO7名の HUPHO2013によるサポートで対応
- 2014年 KHUPO 近藤 格 (KHUPO 側からの推薦)
- 2014年 JHUPHO Byoung Chul Park (Korea Res. Inst. of Biosci. & Biotechnol.)
- 2015年 KHUPO 荒木令江
- 2015年 JHUPHO Bonghee Lee (Gachon University)

2016年 KHUPO 小松節子, 野呂 絵里花  
2016年 JHUPO Kwang Pyo Kim  
2017年 KHUPO 服部成介, 野村文夫  
2017年 JHUPO Cheolju Lee  
2018年 KHUPO 石濱泰  
2018年 JHUPO Jo-Yoel Cho  
2019年 KHUPO 大槻純男, 太田信哉  
2019年 JHUPO Jinhwan Eugene Lee  
2020年 KHUPO 奥田修二郎, 紀藤圭治, 松本雅記 (中止)  
2020年 JHUPO 中止  
2021年 AOHUPO (KHUPO 主催) 奥田修二郎, 紀藤圭治, 松本雅記  
2021年 JHUPO Kim Youngsoo (Seoul National University College of Medicine)  
2022年 KHUPO 足立淳  
2022年 JHUPO Jin Han (Inje University)  
2023年 KHUPO  
2023年 JHUPO Jin Young Kim (Republic of Korea)

- 本学会では、**Jin Young Kim** 先生にご講演いただいたこと、また、今年度は、交換講演をしていただいた先生1名分の旅費、謝金 20 万円の支払いを行ったことについても報告があった。(今後の旅費等の支払いについては改めて具体的に相談する必要があるとのこともあった。)

## 9. 各担当理事からの報告

### (1) 学術企画活動(荒木)

分子生物学会について、JPrOS から第 46 回分子生物学会(12/6~12/8) (神戸)のシンポジウムの申請を行い採択された。今年度は岩崎未央先生と川村猛先生となり、「様々なタンパク質の翻訳後修飾が織りなす生命現象」というタイトルで企画された。本シンポジウムは 12 月 6 日(水)の 16:00~18:15 に開催予定であると報告があった。

### (2) 教育活動(堂前)

今年度は 11 月末か、12 月初旬開催を予定している。初日に理研(和光)でのサンプル調製を行い、翌日ブルカ社、サーモ社各社2時間ずつ訪問し、最新機種での解析を行うツアーを行うことを予定 (Max 20 名程度)しているとの報告があった。

### (3) 国際活動(近藤)

・HUPO2023(韓国)について  
(上記で報告あり、特に追加の報告なし)

### (4) 広報活動(河野)

武森先生が2月の Top-down Proteomics シンポジウムを、近藤先生が 5 月のプロテオゲノミクス学会でのシンポジウムを開催。今後は、10/5~6 未来館での MaxQuant の講習会、Hupo のプロテオスタ

ンダードイニシアティブ(3/18~20)引き続きのオミクス全般のシンポジウム(3/21)での広報を予定であることの報告があった。

10. 2022-2023 年度主催・共催・後援・協賛実績

- (1) 主催 日本プロテオーム学会 2022 年大会(2022.8.8-8.10、北里大学相模原キャンパス)
- (2) 共催 プロテオームデータ解析セミナー(2023.10.5-6、主催:日本プロテオーム学会 JPDM 編集委員会、日本科学未来館)
- (3) 後援 第 20 回北里プロテオーム研究会(2023.3.16、主催:北里大学理学部附属疾患プロテオミクスセンター、北里大学相模原キャンパス)
- (4) 協賛 日本バイオインフォマティクス学会 バイオインフォマティクス技術者認定試験(第1回 2023.7.1-8.6、第2回 2023.10.11-11.10、主催:日本バイオインフォマティクス学会、オンライン)

- 上記の主催・共催・後援・協賛を行う旨の報告があった。

11. その他

- (1) 年間スケジュールの作成

- 今後学会通信等で報告予定であることの報告があった。

- (2) 学会 HP の充実

- 引き続き議論の予定であること報告があった。

## 【審議事項】

## 1. 2022年度収支決算報告および2023年度予算案（杉山）

## 【2022年度 一般会計収支決算書】

2022年4月1日～2023年3月31日

経常収益（収入）	13,269,173 円
《内訳》	
受取会費	1,342,000 円
（個人会員）	692,000 円
（法人会員）	650,000 円
事業収益（2022年大会）	7,027,000 円
（受取参加料）	1,538,000 円
（受取広告料）	682,000 円
（受取展示料）	3,927,000 円
（ランチセミナー）	880,000 円
受取補助金等	4,900,000 円
（JPDM国際情報発信強化）	4,900,000 円
雑収益	154 円
（受取利息）	154 円
特定資産運用益	19 円
（特定資産受取利息）	19 円
経常費用（支出）	14,047,211 円
《内訳》	
事業費	12,564,729 円
大会	7,656,644 円
（会議費）	156,499 円
（消耗品費）	10,846 円
（印刷製本費）	386,985 円
（賃借料）	4,775,386 円
（支払手数料）	65,046 円
（委託費）	2,261,882 円
助成	4,908,085 円
（会議費）	16,500 円
（旅費交通費[JPDMセミナー、編集会議]）	3,574,144 円
（通信運搬費）	132,422 円
（消耗品費）	697,807 円
（印刷製本費）	72,380 円
（賃借料）	317,636 円
（支払手数料）	97,196 円
管理費	1,482,482 円
（通信運搬費）	460 円
（印刷製本費）	296,670 円
（支払手数料）	18,802 円
（委託費）	612,750 円
（雑費）	553,800 円

2022年度 正味財産増減額；	△ 658,061 円
➢税引前一般正味財産増減額(経常収益 - 経常費用)；	△ 778,038 円
➢法人税、住民税及び事業税；	70,023 円
	(法人住民税70,000円 + 利息税金23円)
➢指定正味財産増減額；	190,000 円
	(2023年大会基金(受取寄付金))
<b>正味財産合計(純資産)</b>	<b>12,611,845 円(2022年度繰越金)</b>
➢2021年度 繰越金；	13,269,906 円
➢2022年度 正味財産増減額；	△ 658,061 円

## 【貸借対照表】

2023年3月31日現在

(資産の部)

<b>資産合計</b>	<b>17,818,124 円</b>
流動資産	
現金預金	17,364,261 円
学会事務局 普通預金	
ゆうちょ銀行 (35543261)	12,012,071 円
2022年大会事務局 普通預金	
ゆうちょ銀行 (55997051)	163,348 円
2023年大会事務局 普通預金	
ゆうちょ銀行 (01404871)	5,378,842 円
	(2023年大会基金(受取寄付金)190,000円含む)
JPDM国際情報発信強化 普通預金	
三菱UFJ銀行 (0195336)	0 円
2023年大会 前払金	262,663 円
未収金	1,200 円
固定資産	
2023年大会基金(受取寄付金)	190,000 円

(負債の部)

<b>負債合計</b>	<b>5,206,279 円</b>
未払費用(4月に支払う会計事務所費3月分)	27,500 円
前受会費(2023年度法人会費)	150,000 円
前受金(2022年大会協賛金)	4,950,000 円
預り金(12~2月分の会計事務所報酬に対する源泉徴収)	8,779 円
未払法人税等	70,000 円

資産合計 — 負債合計 = 12,611,845 円 (正味財産合計)

## 令和4年度(2022年度)会計監査報告書

日本プロテオーム学会の令和4年度(2022年度)の収支決算  
について監査を実施した結果、正確であることを認めます。

令和5年 6月 13日

会計監査 高尾敏文

会計監査 \_\_\_\_\_

## 令和4年度(2022年度)会計監査報告書

日本プロテオーム学会の令和4年度(2022年度)の収支決算  
について監査を実施した結果、正確であることを認めます。

令和5年 6月 16日

会計監査 小田 吾哉

会計監査 \_\_\_\_\_

### 監査コメント

#### [JPDM 科研費]

- ◆ 旅費交通費の占める割合が大きい。説明を付すべき>JPDM セミナーで利用していることを説明
- ◆ HUPO 以外にも海外の学会に積極的に派遣すべき。複数の人を同じ学会に派遣するよりは一人ずつ異なる国に派遣するほうが、多く宣伝ができるのではないか。
- ◆ 立替払い額が大きい。対応策:限度額を調達規定に明記する。現状でも極力請求書払いにしている。

#### [大会]

2022年大会の赤字→今年度の見通しはどうなっているか?

プロテオミクスは以前のブームが過ぎ去り、そしてコロナがあったので、以前のレベルまで人が戻ってくるのが微妙な状況。大会の収支バランスをとるためには、参加者を集めやすい開催地と安い会場がある場所のバランスを今後考えていく必要がある。また参加者や発表者が毎回同じ顔触れにならないように、非会員の参加を如何にして増やすかも、今後の学会の発展のためには必須と思われる。



## 決算推移

単位(円)

	2017	2018	2019	2020	2021	2022
経常収益(収入)	13,435,553	10,814,169	14,537,247	1,585,112	8,623,134	13,269,133
受取会費	1,232,000	1,402,000	1,372,002	1,310,000	1,474,000	1,342,000
(個人会員)	432,000	752,000	622,002	610,000	824,000	692,000
(法人会員)	800,000	650,000	750,000	700,000	650,000	650,000
事業収益	11,336,600	8,878,686	10,738,615	275,000	3,069,000	7,027,000
(受取参加料)	2,551,000	3,134,859	2,459,000	0	1,089,000	1,538,000
(受取広告料)	1,014,200	462,958	1,126,000	220,000	385,000	682,000
(受取展示料)	5,758,400	3,531,757	5,350,615	55,000	495,000	3,927,000
(受取懇親会費)	447,000	710,702	723,000	0	0	-
(フロンティア)	1,566,000	951,876	1,080,000	0	1,100,000	880,000
(イノベーション)	0	86,534	0	0	0	-
受取負担金	0	0	0	0	100,000	-
受取補助金等	0	0	2,400,000	0	3,900,000	4,900,000
受取寄付金	800,000	533,424	10,000	0	80,000	-
雑収益	66,953	59	16,630	112	114	114
(受取利息)	84	59	130	112	114	154
(雑収益)	66,869	0	16,500	0	-	-
特定資産運用益	0	0	0	0	20	19
経常費用(支出)	12,564,088	8,113,268	12,783,503	2,194,857	6,212,886	14,047,211
事業費	11,082,504	6,952,960	11,554,239	979,572	1,195,137	7,656,644
(会議費)	0	59,946	71,000	0	-	156,499
(懇親会費)	1,809,280	107,624	2,936,064	0	-	-
(旅費交通費)	0	501,789	680,099	0	-	-
(通信運搬費)	0	3,167	163,884	0	98,890	-
(消耗品費)	285,237	103,659	105,392	0	-	10,846
(印刷製本費)	1,082,508	12,968	0	5,412	-	386,985
(賃借料)	1,201,582	0	4,307,008	500,400	-	4,775,386
(諸謝金)	1,140,803	0	0	0	-	-
(支払手数料)	81,531	144	85,720	12,760	51,247	65,046
(委託費)	5,481,563	6,027,495	3,095,616	461,000	1,045,000	2,261,882
(雑費)	0	136,168	109,456	0	-	-
科学研究費助成事業費	0	0	0	0	3,900,677	4,908,085
管理費	1,481,584	1,160,308	1,229,264	1,215,285	1,117,072	1,482,482
(通信運搬費)	10,882	0	0	3,330	1,260	460
(消耗品費)	4,196	3,880	1,500	0	-	-
(印刷製本費)	379,566	251,208	369,570	522,595	303,215	296,670
(賃借料: WebEX会議システム利用料)	0	145,800	0	0	-	-
(租税公課)	4,000	0	0	0	-	-
(諸謝金)	0	30,054	0	0	-	-
(支払手数料)	6,480	7,272	58,884	77,160	24,410	18,802
(支払助成金)	100,000	0	0	0	-	-
(委託費)						
— Web運営維持管理費	751,020	207,420	135,650	138,650	138,650	138,650
— 会計事務	192,240	514,620	484,350	473,550	473,550	474,100
(雑費)	33,200	54	179,310	0	175,987	553,800
税引前一般正味財産増減額	871,465	2,700,901	1,753,784	△ 609,745	2,410,248	△ 778,038
法人税、住民税及び事業税	390,111	183,207	337,917	70,016	78,917	70,023
指定正味財産増減額	0	0	0	80,000	△ 80,000	190,000
正味財産増減額	481,354	2,517,694	1,415,867	△ 599,761	2,251,331	△ 658,061
前年度繰越金	7,203,421	7,684,775	10,202,469	11,618,336	11,018,575	13,269,906
正味財産合計(純資産)	7,684,775	10,202,469	11,618,336	11,018,575	13,269,906	12,611,845

## 【令和5年度（2023年度）予算案】

<b>収入</b>	<b>30,410,795 円</b>
《 内訳 》	
2022年度繰越金	12,610,645 円
受取会費	
（個人会員）	700,000 円
（法人会員）	650,000 円
事業収益	
（2023年大会開催収入）	12,750,000 円
受取寄付金	0 円
受取助成金（JPDM国際情報発信強化）	3,700,000 円
雑収益	
（利息）	150 円
<b>支出</b>	<b>30,410,795 円</b>
《 内訳 》	
事業費	
（2023年大会開催支出）	11,033,552 円
（大会準備金）	500,000 円
管理費	
（会議費）	30,000 円
（通信運搬費）	10,000 円
（消耗品費）	10,000 円
（印刷製本費）	300,000 円
（諸謝金）	300,000 円
（支払手数料）	20,000 円
（委託費）	
— Web運営維持管理費	140,000 円
— 会計事務	480,000 円
（雑費）	
— 学会賞、トラベルアワード関連	300,000 円
科学研究費助成事業費	3,700,000 円
税金	80,000 円
予備費（2023年度繰越金）	13,507,243 円

今年度からは、大会準備金(50万円)は返却必要ないものとなっている。

2023年度は、80万円程度の黒字になることが想定されている。

今年度の年会の収入が多いのは何故か？という質問があり、参加者が多く(355人)、それに加え補助金、ランチョンセミナー、ブース等の収入が多かったためではないのか？という返答があった。

科研費について、助成金との記載で問題ないかとの指摘があり、(科研費補助金)との記載とすることについて確認された。

- 上記会計報告及び、予算案の説明があり、理事会で承認された。

## 2. JPrOS2024 大会(近藤)(資料 2, 3)

### (1)開催概要

- ・会期:2024年6月26(水)-28日(金)(予定)
- ・会場:リンクステーションホール青森(青森市文化会館)(資料3参照)
- ・大会長:近藤 格(国立がん研究センター)

### (2)運営費用概算

- ・会場部屋使用料:912,785円(大ホールをおさえると+50万円程度費用が増える可能性あり?)
- ・会場設備使用料等(常設設備や空調・電気代等):920,200円
- ・学会運営会社(持ち込み機材、人件費等):1,753,875円

- 上記に加え、臨床プロテオゲノミクス学会との共催となること、リンクステーションホールは空港、新幹線も利用が便利であることについても報告があった。

## 3. JPrOS2025 大会(小寺)

- (1)大会長 小原 収(かずさDNA研究所)
- (2)開催場所 かずさDNA研究所(予定)
- (3)その他、かずさDNA研究所との共催で開催

- 上記報告があった。

### 「参考資料」 年大会開催地／大会長

年	開催地／大会長
2003	第1回 つくば／中西洋志
2004	第2回 東京／戸田年総
2005	第3回 横浜／平野 久
2006	第4回 東京／西村俊秀
2007	第5回 東京／磯邊俊明
2008	第6回 大阪／高尾敏文
2009	第7回 東京／前田忠計
2010	第8回 千葉／山田哲司
2011	第9回 新潟／山本 格
2012	第10回 東京／高橋信弘
2013	第11回(HUPOと合同) 横浜／平野 久
2014	第12回 つくば／成松 久
2015	第13回 熊本／荒木令江
2016	第14回 東京／服部成介
2017	第15回 大阪／朝長 毅 7/26-28, ホテル阪急エキスポパーク
2018	第16回 大阪／石濱 泰 (第66回質量分析総合討論会(日本質量分析学会

	の年次大会)と第9回AOHUPOとの合同大会) 2018.5.15-18, ホテル阪急エキスポパーク
2019	第17回 宮崎／榑原陽一、松本雅記、大槻純男 2019.7.24-27
2020	第18回 東京／紀藤圭治、堂前直、川村猛 (中止)
2021	第19回 徳島／小迫英尊
2022	第20回 神奈川／小寺義男
2023	第21回 新潟／松本雅記
2024	第22回 青森／近藤格
2025	第23回 千葉(予定)／小原收

#### 4. Presentation award の選考について(紀藤)

##### (1)規約の改定(資料4)

・選考委員会委員長について

- 先行規定の改定案を説明された。選考委員長について、国際主担当が務めることとなっているが、国際主担当が利益相反等で務められない場合は副担当が務めることとすることについて承認された。

##### (2)2023年選考委員の選出

- 今後上記改訂に沿って選考が行われること説明された。

#### 5. その他

##### (1)国際学会関連 award の情報公開について

- 国際学会での travel award 受賞者について、学会 HP に公開することについて議論された。JPROS で情報を得ることができないため、会員に情報提供の依頼連絡を行うことについて確認された。(名簿の漏れがある可能性の懸念について継続議論)

##### (2)シニア会員制度

- 今後継続議論されることが確認された。

##### (3)その他

- オーストラリア HUPO(1~2月)での交換講演などを進めることについて継続議論されることが確認された。
- 小寺会長より、今回が現体制での定例理事会が最後となること、現体制として、名誉会員の制度を決められたこと、2022、2023大会を開催できたこと、イニシアティブに向けての活動をすすめられたことについてのまとめがあった。また11月頃よりより次期理事会(2年任期となる)の選挙が行われることについても連絡があった。